

契 約 書 (案)

1	業務名称	大阪急性期・総合医療センターの遠隔医療通訳業務										
2	履行場所	大阪府大阪市住吉区万代東3丁目1番56号 大阪急性期・総合医療センター										
3	履行期間	令和7年6月1日から 令和10年5月31日まで										
4	契約金額			十億			百万			千		円
	うち取引に係る消費税及び地方消費税の額											
	(注)「取引に係る消費税及び地方消費税の額」は、消費税法(昭和63年法律第108号)第28条第1項及び第29条並びに地方税法(昭和25年法律第226号)第72条の82及び第72条の83の規定により算出したもので、契約金額に110分の10を乗じて得た額である。											
5	契約保証金	徴収又は免除(地方独立行政法人大阪府立病院機構契約事務取扱規程第26条第1項第1号又は3号)										
6	適用除外条項	なし										

上記の業務について、発注者と受注者は、各々対等な立場における合意に基づいて、別添の条項(適用除外条項は、上記6のとおり)によって公正な契約を締結し、信義に従って誠実にこれを履行するものとする。

この契約の締結を証するため、本書2通を作成し、当事者記名押印の上、各1通を保有する。

令和7年 月 日

発 注 者 大阪府大阪市住吉区万代東3丁目1番56号
地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪急性期・総合医療センター
総 長 嶋津 岳士

受 注 者

(総則)

- 第1条 発注者及び受注者は、この契約書（仕様書を含む。以下同じ。）に基づき、日本国の法令を遵守し、この契約を誠実に履行しなければならない。
- 2 受注者は、この契約の履行に当たっては、常に善良なる管理者の注意をもってこの契約に基づく業務（以下「業務」という。）を行わなければならない。
- 3 この契約書に定める催告、請求、通知、報告、申出、承認及び解除は、書面により行わなければならない。
- 4 この契約の履行に関して発注者受注者間で用いる言語は、日本語とする。
- 5 この契約書に定める金銭の支払に用いる通貨は、日本円とする。
- 6 この契約の履行に関して発注者受注者間で用いる計量単位は、仕様書等に特別の定めがある場合を除き、計量法（平成4年法律第51号）に定めるものとする。
- 7 この契約書における期間の定めについては、民法（明治29年法律第89号）及び商法（明治32年法律第48号）の定めるところによるものとする。
- 8 この契約は、日本国の法令に準拠するものとする。
- 9 この契約に係る一切の訴訟の提起又は調停の申立てについては、大阪簡易裁判所又は大阪地方裁判所をもって合意による専属的管轄裁判所とする。
- 10 受注者は、この契約を履行するに当たり、出向社員又は派遣社員を受け入れて業務を行うときは、別記「委託役務業務に係る出向社員等の取扱特記事項」を遵守しなければならない。

(契約金額の内訳等)

第2条 契約金額の内訳は、次のとおりとする。

(月額利用料)

月額料金 金 円（消費税及び地方消費税額を除く）

(権利義務の譲渡等の禁止)

第3条 受注者はこの契約によって生じる一切の権利又は義務を第三者に譲渡し、承継させ、又は担保の目的に供してはならない。ただし、あらかじめ発注者の書面による承諾を得た場合は、この限りではない。

(再委託等の禁止及び誓約書の提出)

- 第4条 受注者は、委託業務の全部若しくは一部の処理を第三者に委託し、又は請け負わせてはならない。ただし、受注者が、委任し、又は請け負わせようとする受注者又は下請負人の名称その他発注者が必要とする事項を書面をもって発注者に通知し、発注者の承認を得て業務の一部を委任し、又は請け負わせるときは、この限りでない。
- 2 受注者が前項ただし書きの規定により、業務の一部を委任し、又は請け負わせるときは、次の各号のとおりとする。
- (1) 受注者は、次のいずれかに該当する者を受任者又は下請負人としてはならない。
- ア 入札参加停止措置を受けている者（ただし、民事再生法（平成11年法律第225号）の規定による再生手続開始の申立て又は会社更生法（平成14年法律第154号）の規定による更生手続開始の申立てをしたことにより入札参加停止の措置を受けたものを除く。）
- イ 大阪府暴力団排除条例に基づく公共工事等からの暴力団の排除に係る措置に関する規則（令和2年大阪府規則第61号。以下「暴力団排除措置規則」という。）第3条第1項に規定する入札参加除外者（以下「入札参加除外者」という。）
- ウ 暴力団排除措置規則第9条第1項に規定する誓約書違反者（以下「誓約書違反者」という。）
- エ 第17条第2項第12号に掲げるアからオのいずれかに該当する者
- (2) 受注者は、業務上知り得た個人情報の保護及び業務上使用したデータの適正な取扱いその他受任者又は下請負人が遵守すべき事項として発注者が定めた内容を記載した誓約書を、受任者又は下請負人のすべての者に提出させなければならない。
- (3) 受注者は、受任者又は下請負人の行為のすべてについて責任を負うものとする。
- 3 受注者は、受任者又は下請負人それぞれから大阪府立病院機構発注工事等に係る暴力団排除等

手続要領に規定する誓約書を徴取し、発注者に提出しなければならない。

- 4 発注者は、受注者が入札参加除外者、誓約書違反者又は第 17 条第 2 項第 12 号に掲げるアからエのいずれかに該当する者を受任者又は下請負人とし、又は大阪府暴力団排除条例（平成 22 年大阪府条例第 58 号。以下「暴力団排除条例」という。）第 10 条第 2 号に規定する者と契約を締結していると認められる場合は、受注者に対して、当該契約の解除を求めることができる。当該契約の解除を行った場合における一切の責任は、受注者が負うものとする。

（法令上の責任）

第 5 条 受注者は、業務に従事する通訳者、コーディネーター等（以下「業務従事者」という。）の使用者として、労働基準法（昭和 22 年法律第 49 号）、労働者災害補償保険法（昭和 22 年法律第 50 号）、職業安定法（昭和 22 年法律第 141 号）、最低賃金法（昭和 34 年法律第 137 号）、その他関係法令を遵守するとともに、これら法令上の一切の責任を負い、かつ、責任をもって労務管理を行うものとする。

- 2 受注者は、事業主として、業務遂行に伴い発生した財産上、法令上のすべての問題について責任を負うものとする。
- 3 発注者は、受注者が府税に係る徴収金、消費税及び地方消費税その他の公租公課を完納したことを確認する必要がある場合、発注者に対し、納税証明書等の確認書類の提出を求めることができる。

（善管注意義務）

第 6 条 受注者は、この契約の履行に当たっては、常に善良なる管理者の注意をもって委託業務をなす責任を負うものとする。

（秘密の保持）

第 7 条 受注者は、この契約の履行によって知り得た秘密を第三者に漏らし、又は他の目的に利用してはならない。なお、この業務委託満了後についても同様とする。

- 2 受注者は、業務に関係のある入力資料・USB・磁気ディスク等（以下「情報媒体」という。）及び成果物を発注者が指示した目的以外に使用し、又他人に閲覧させ若しくは貸出してはならない。
- 3 受注者は、業務に関係のある情報媒体及び成果物を発注者が指示した目的以外に複製又は複製してはならない。
- 4 受注者は、業務従事者に対し前三項の秘密保持を徹底させなければならない。
- 5 前 4 項の定めは、委託期間が終了した後も適用される。
- 6 受注者は、業務従事者から秘密保持に関する誓約書を徴しておかなければならない。

（個人情報の取り扱い）

第 8 条 受注者は、個人情報の保護の重要性を認識し、個人情報の保護に関する法律（平成 15 年法律第 57 号）及び大阪府個人情報の保護に関する法律施行条例（令和 4 年大阪府条例第 60 号）その他法令に定めるもののほか、業務を処理するための個人情報の取り扱いについては、別記「個人情報取扱特記事項」を遵守しなければならない。

（人権啓発等研修）

第 9 条 受注者は、業務従事者が基本的人権について正しい認識をもって業務を遂行できるように人権啓発等の通訳倫理に係る研修を行い、研修の開催状況について発注者に報告するものとする。

（業務上の責任範囲等）

第 10 条 受注者は、業務が安全に履行され、発注者及び外国人患者が安心して通訳を利用できるよう、本業務の品質及び個人情報の管理に係る業務管理責任者を定め、発注者に書面で報告しなければならない。また、業務管理責任者を変更する場合も、同様とする。

- 2 受注者は、業務従事者が外国人患者の人権の尊重及びプライバシーの保護に努め、また通訳過誤、個人情報の漏えい等により関係者に損害等を生じさせることのないよう、細心の注意を払っ

て業務に従事させなければならない。

- 3 業務の履行によって発生した問題については、発注者、受注者及び関係者で協議の上、対応するものとする。
- 4 受注者は、電話及びビデオ通訳において、業務従事者の故意又は過失による通訳過誤が客観的に明白であり、その結果、関係者に損害等が発生した場合、その責任を負う。
- 5 機械翻訳において、誤訳等の結果、関係者に不利益が生じた場合、発注者及び受注者は賠償の責任を負わない。

（臨機の措置）

- 第 11 条 受注者は、業務の履行に当たって事故が発生したとき、又は事故が発生するおそれのあるときは、発注者の指示を受け、又は発注者受注者協議の上、臨機の措置をとらなければならない。ただし、緊急やむを得ない事情があるときは、受注者の判断によって臨機の措置をとらなければならない。
- 2 前項の場合において、受注者は、そのとった措置の内容について、遅滞なく発注者に報告しなければならない。
 - 3 発注者は、事故防止その他業務上特に必要があると認めたときは、受注者に対して臨機の措置をとることを請求することができるものとする。

（業務状況の報告及び検査）

- 第 12 条 受注者は、電話通訳、ビデオ通訳及び機械翻訳の利用状況（利用日時、言語、診療科、場面（診察、検査、支払いなど）について、発注者が、WEB 上での利用履歴の閲覧等により、随時確認し、検査できるようにしなければならない。
- 2 発注者は、前項に定めるほか、必要と認められるときは、受注者に対して業務の処理状況及びその結果について調査し、又は報告を求めることができる。
 - 3 発注者は、第 1 項の方法により、毎月の業務状況について速やかに検査を行わなければならない。
 - 4 受注者は、前項の検査に合格しないときは、発注者の指示に従い、直ちに必要な修正を行うものとし、当該修正が完了したときは、その旨を発注者に通知しなければならない。

（契約代金の支払い等）

- 第 13 条 受注者は、前条の検査に合格したときは、適法な手続きに従って、発注者に委託料の支払を請求することができる。
- 2 前項の請求金額は、契約単価に委託件数を乗じて得た額に消費税及び地方消費税を付加した金額とする。ただし、当該金額に 1 円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てるものとする。
 - 3 発注者は、第 1 項の請求書を受領した日が属する月の翌月末までに契約代金を受注者に支払わなければならない。
 - 4 発注者は、前項の期間内に契約代金を支払うことができないときは、前項の期間満了の日の翌日から代金支払の日までの日数に応じ、当該未支払代金に対し年 3 パーセントの割合で計算して得た額の遅延利息を受注者に支払わなければならない。
 - 5 発注者は、第 2 項の請求書を受領した後、その請求書の内容の全部又は一部に瑕疵があることを発見したときは、その事由を明示して、その請求書を受注者に返付することができる。この場合において、発注者は受注者から是正した請求書を受領した日が属する月の翌月末までに代金を受注者に支払わなければならない。ただし、その請求書の内容の不備が、受注者の故意又は重大な過失によるときは、その請求書の提出は無効とする。

（不履行責任）

- 第 14 条 受注者は、当該委託業務について、契約条項に定めたとおりに履行できなかったときは、遅滞なく発注者に報告しなければならない。

(損害賠償)

第 15 条 受注者は、その責めに帰する事由により、業務の実施に関し発注者又は第三者に損害を与えた場合は、その損害を賠償しなければならない。

2 前項の損害のうち、発注者に過失が認められる場合は、発注者受注者共同してその損害を賠償するものとする。

3 発注者は、受注者が債務の本旨に従った履行をしないとき又は債務の履行が不能であるときは、これによって生じた損害の賠償を受注者に対し請求することができる。ただし、その債務の不履行がこの契約及び取引上の社会通念に照らして受注者の責めに帰することができない事由によるものであるときは、この限りでない。

(発注者の任意解除権)

第 16 条 削除

(発注者の解除権)

第 17 条 発注者は、受注者が次の各号のいずれかに該当するときは、相当の期間を定めてその履行の催告をし、その期間内に履行がないときは、この契約の全部又は一部を解除することができる。ただし、その期間を経過した時における債務の不履行がこの契約及び取引上の社会通念に照らして軽微であるときは、この限りでない。

(1) 正当な理由なくこの契約の全部又は一部を履行しないとき。

(2) 受注者の責めに帰する理由により契約期間内に業務を完了しないとき、又は完了する見込みがないと明らかに認められるとき。

(3) 前各号に掲げる場合のほか、この契約に違反したとき。

2 発注者は、受注者が次の各号のいずれかに該当するときは、前項の催告をすることなく、直ちにこの契約を解除することができる。

(1) 第 3 条の規定に違反して、本契約から生じる債権を譲渡したとき。

(2) 受注者の債務の全部の履行が不能であるとき。

(3) 受注者がその債務の全部の履行を拒絶する意思を明確に表示したとき。

(4) 受注者の債務の一部の履行が不能である場合又は受注者がその債務の一部の履行を拒絶する意思を明確に表示した場合において、残存する部分のみでは契約をした目的を達することができないとき。

(5) 契約の性質又は当事者の意思表示により、特定の日時又は一定の期間内に履行をしなければ契約をした目的を達することができない場合において、受注者が履行をしないでその時期を経過したとき。

(6) 前各号に掲げる場合のほか、受注者がその債務の履行をせず、発注者が前項の催告をしても契約をした目的を達するのに足りる履行がされる見込みがないことが明らかであるとき。

(7) 暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成 3 年法律第 77 号）第 2 条第 2 号に規定する暴力団をいう。以下この条において同じ。）又は暴力団員（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律第 2 条第 6 号に規定する暴力団員をいう。以下この条において同じ。）が経営に実質的に関与していると認められる者に本契約から生じる債権を譲渡したとき。

(8) この契約の締結又は履行に当たり不正な行為をしたとき。

(9) 故意又は過失により発注者に重大な損害を与えたとき。

(10) 第 19 条の規定によらないで受注者からこの契約の解除の申し入れがあったとき。

(11) 第 4 条第 4 項の規定により、発注者から委任又は下請契約の解除を求められた場合において、受注者がこの求めに応じなかったとき。

(12) 受注者が次のいずれかに該当するとき。

ア 役員等（受注者が個人である場合にはその者その他経営に実質的に関与している者を、受注者が法人である場合にはその役員、その支店又は常時業務の契約を締結する事務所の代表者その他経営に実質的に関与している者をいう。以下この号において同じ。）が暴力団又は暴力団員であると認められるとき。

イ 役員等が、自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える

目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしていると認められるとき。

- ウ 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与していると認められるとき。
- エ 役員等が、暴力団又は暴力団員であることを知りながらこれを不当に利用するなどしていると認められるとき。
- オ 役員等が、暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有していると認められるとき。
- カ アからオのいずれかに該当する者であることを知りながら、これを相手方として、第4条第1項の規定により第三者に委任し、又は請け負わせようとするときの契約又は資材、原材料の購入契約その他の契約を締結したと認められるとき。

(13) 暴力団排除条例第10条及び暴力団排除措置規則第5条第1項の規定に該当したとき。

(同規則第9条第4項の規定により誓約書違反者について準用する場合を含む。)

3 次に掲げる場合には、発注者は、第1項の催告をすることなく、直ちに契約の一部の解除をすることができる。

- (1) 債務の一部の履行が不能であるとき。
- (2) 受注者がその債務の一部の履行を拒絶する意思を明確に表示したとき。

第17条の2 発注者は、この契約に関し、受注者が次の各号のいずれかに該当するときは、直ちにこの契約を解除することができる。

- (1) 私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和22年法律第54号。以下「独占禁止法」という。）第8条の4第1項の規定による必要な措置を命ぜられたとき。
- (2) 独占禁止法第7条第1項若しくは第2項（独占禁止法第8条の2第2項及び第20条第2項において準用する場合を含む。）、独占禁止法第8条の2第1項若しくは第3項、第17条の2又は第20条第1項の規定による排除措置命令（以下「排除措置命令」という。）を受けたとき。
- (3) 独占禁止法第7条の2第1項（独占禁止法第8条の3において読み替えて準用する場合を含む。）若しくは独占禁止法第7条の9第1項の規定による課徴金の納付命令（以下「納付命令」という。）を受けたとき、又は独占禁止法第7条の2第1項の規定により課徴金を納付すべき事業者が、独占禁止法第7条の4第1項の規定により納付命令を受けなかったとき。
- (4) 刑法（明治40年法律第45号）第96条の6若しくは第198条又は独占禁止法第3条の規定による刑の容疑により刑事訴訟法（昭和23年法律第131号）第247条の規定に基づく公訴を提起されたとき（受注者の役員又はその使用人が当該公訴を提起されたときを含む。）。
- (5) 公正な競争の執行を妨げた者、又は公正な価格を害し若しくは不正な利益を得るために連合した者に該当すると認められたとき。
- (6) 第4条の規定に違反したとき。
- (7) 公租公課若しくは地方独立行政法人大阪府立病院機構の債権を滞納し督促を受けても滞納金の支払いがなされないとき、滞納処分を受けたとき、民事訴訟上の強制執行を受けたとき、任意整理の申請がされたとき又はその他受注者の信用状態が著しく悪化し若しくはその恐れが大きいと発注者が認めるべき相当の理由があるとき。

第18条 第17条又は前条に定める場合が発注者の責めに帰すべき事由によるものであるときは、発注者は、前2条の規定による契約の解除をすることができない。

（受注者の解除権）

第19条 受注者は、発注者がこの契約に違反し、それにより業務を完了することが不可能となったときは、書面をもって発注者に通告することによって、この契約を解除することができる。ただし、受注者の責めに帰すべき事由によるものであるときは、この限りでない。解除することができる場合において、発注者に未払となっている契約代金があるときは、受注者の発注者に対する当該契約代金及びこれに係る年3パーセントの割合による遅延利息の請求を妨げない。

（契約が解除された場合等の違約金）

第20条 次の各号のいずれかに該当する場合には、受注者は、違約金として、契約金額の

100 分の 5 に相当する額を、発注者の指定する日までに、発注者に支払わなければならない。

- (1) 第 17 条の規定によりこの契約が解除された場合
 - (2) 受注者がその債務の履行を拒否し、又は、受注者の責めに帰すべき事由によって受注者の債務について履行不能となった場合
- 2 次の各号に掲げる者がこの契約を解除した場合は、前項第 2 号に該当する場合とみなす。
- (1) 受注者について破産手続開始の決定があった場合において、破産法（平成 16 年法律第 75 号）の規定により選任された破産管財人
 - (2) 受注者について更生手続開始の決定があった場合において、会社更生法（平成 14 年法律第 154 号）の規定により選任された管財人
 - (3) 受注者について再生手続開始の決定があった場合において、民事再生法（平成 11 年法律第 225 号）の規定により選任された再生債務者等
- 3 第 1 項の場合において、契約保証金の納付又はこれに代わる担保の提供が行われているときは、発注者は、当該契約保証金又は担保をもって違約金に充当することができる。
- 4 第 1 項及び前項の規定による違約金の支払いは、別に損害賠償の請求を妨げるものではない。
- 5 第 1 項（第 2 項の規定により第 1 項第 2 号に該当する場合とみなされる場合を除く。）又は前項に定める場合が、この契約及び取引上の社会通念に照らして受注者の責めに帰することができない事由によるものであるときは、第 1 項及び前項の規定は適用しない。
- 6 受注者は、この契約により、発注者に支払うべき債務が生じた場合において、その債務額を発注者の指定する期限内に納付しないときは、指定期限日の翌日から納付の日までの日数に応じ債務額に対して年 3 パーセントの割合で算出した金額を遅滞料として併せて発注者に納付しなければならない。

（賠償額の予定等）

- 第 21 条 受注者は、この契約に関し、次の各号のいずれかに該当するときは、発注者がこの契約を解除するか否かを問わず、賠償金として、委託金額の 100 分の 20 に相当する額を発注者の指定する期間内に支払わなければならない。この場合において、発注者がこの契約を解除するか否かを問わず、委託業務が完了した後も同様とする。
- (1) 受注者に違反行為があったとして公正取引委員会が行った排除措置命令が確定したとき。
 - (2) 受注者に違反行為があったとして公正取引委員会が行った納付命令が確定したとき、又は独占禁止法第 7 条の 2 第 1 項の規定により課徴金を納付すべき事業者が、独占禁止法第 7 条の 4 第 1 項の規定により納付命令を受けなかったとき。
 - (3) 第 17 条の 2 第 4 号に規定する刑が確定したとき。
 - (4) 第 17 条の 2 第 5 号に該当したとき。
- 2 受注者が第 4 条第 1 項の規定に違反し、業務の全部を第三者に委任し、又は請け負わせたときは、受注者は、委託金額の 100 分の 10 に相当する額を発注者が指定する期間内に支払わなければならない。前項後段の規定は、この場合について準用する。
- 3 前 2 項の場合において、発注者に生じた実際の損害額が前 2 項に規定する賠償額を超えるときは、受注者は、超過額を発注者の指定する期間内に支払わなければならない。

（相殺）

- 第 22 条 発注者は、受注者に対して有する金銭債権があるときは、受注者が発注者に対して有する保証金返還請求権、契約代金請求権及びその他の債権と相殺することができる。
- 2 前項の場合において、相殺して、なお不足のあるときは、受注者は、発注者の指定する期間内に当該不足額を支払わなければならない。

（業務内容の変更等）

- 第 23 条 発注者は、この契約の締結後の事情により、業務の内容の全部又は一部を変更することができる。この場合において、契約金額又は契約期間を変更する必要があるときは発注者受注者協議の上、書面によりこれを定めるものとする。

(紛争の処理)

第 24 条 受注者は、この契約に関し、第三者との間に発注者の責めに帰さない紛争が生じたときは、受注者の責任と負担においてその一切の処理をするものとする。

(疑義等の決定)

第 25 条 この契約に定めのない事項又は契約に疑義が生じたときは、必要に応じて発注者受注者協議の上、これを定めるものとする。

(別 記)

特記仕様書

I 妨害又は不当要求に対する報告義務

- (1) 受注者は、契約の履行に当たって、大阪府立病院機構発注工事等に係る暴力団排除等手続要領の定めるところにより、暴力団員及び暴力団密接関係者等から社会通念上不当な要求又は契約の適正な履行を妨げる行為（以下「不当介入」という。）を受けた場合は、断固としてこれを拒否するとともに、発注者及び管轄警察署への報告を行わなければならない。
- (2) 報告は、不当介入報告書により、速やかに、発注者及び管轄警察署の行政対象暴力対策担当者に行うものとする。ただし、急を要し、当該不当介入報告書を提出できないときは、口頭により報告することができる。この場合は、後日、不当介入報告書を各々提出するものとする。
- (3) 受注者は、下請負人等が暴力団員及び暴力団密接関係者等から不当介入を受けた場合は、速やかに報告を行うよう当該下請負人等に指導しなければならない。
- (4) 報告を怠った場合は、大阪府暴力団排除条例（平成 22 年大阪府条例第 58 号）に基づく公表又は入札参加停止を措置することがある。

II 個人情報取扱特記事項

（基本的事項）

第 1 受注者は、個人情報の保護の重要性を認識し、この契約による事務の実施に当たっては、個人の権利利益を侵害することのないよう、個人情報の取扱いを適正に行わなければならない。

（責任体制の整備）

第 2 受注者は、個人情報の安全管理について、内部における責任体制を構築し、その体制を維持しなければならない。

（作業責任者等の届出）

第 3 受注者は、個人情報の取扱いに係る作業責任者を定め、書面により発注者に報告しなければならない。

2 受注者は、作業責任者を変更した場合は、速やかに書面により発注者に報告しなければならない。

3 作業責任者は、特記仕様書に定める事項を適切に実施するよう作業従事者を監督しなければならない。

（秘密の保持）

第 4 受注者は、この契約による事務に関して知り得た情報をみだりに他人に知らせてはならない。この契約が終了し、又は解除された後においても、同様とする。

（教育の実施）

第 5 受注者は、個人情報の保護、情報セキュリティに対する意識の向上、特記仕様書における作業従事者が遵守すべき事項その他本委託業務の適切な履行に必要な教育及び研修を、作業従事者全員に対して実施しなければならない。

（再委託）

第 6 受注者は、発注者の承諾がある場合を除き、この契約による事務の全部又は一部を第三者（受注者の子会社（会社法（平成 17 年法律第 86 号）第 2 条第 3 号に規定する子会社をいう。）を含む。）に委託してはならない。なお、再委託先が再々委託を行う場合以降も同様とする。

2 発注者は、前項の承諾をするに当たっては、少なくとも、別に定める条件を付するものとする。

（派遣労働者等の利用時の措置）

第 7 受注者は、本委託業務を派遣労働者、契約社員その他の正社員以外の労働者に行わせる場合は、正社員以外の労働者に本契約に基づく一切の義務を遵守させなければならない。

2 受注者は、発注者に対して、正社員以外の労働者の全ての行為及びその結果について責任を負うものとする。

(個人情報の適正管理)

第8 受注者は、この契約による事務に関して知り得た個人情報の漏えい、滅失又は損傷の防止その他の個人情報の適切な管理のために必要な措置を講じなければならない。なお、講じるべき措置における留意すべき点は次のとおり。

- (1) 個人情報の利用者、作業場所及び保管場所の限定及びその状況の台帳等への記録
- (2) 施錠が可能な保管庫又は施錠若しくは入退室管理の可能な保管室での個人情報の保管
- (3) 個人情報を取扱う場所の特定及び当該場所における名札（氏名、会社名、所属名、役職等を記したもの）の着用
- (4) 定められた場所からの個人情報の持ち出しの禁止
- (5) 個人情報を電子データで持ち出す場合の、電子データの暗号化処理等の保護措置
- (6) 個人情報を移送する場合の、移送時の体制の明確化
- (7) 個人情報を電子データで保管する場合の、当該データが記録された媒体及びそのバックアップの保管状況にかかる確認及び点検
- (8) 私用パソコン、私用外部記録媒体その他の私用物を持ち込んでの個人情報を扱う作業の禁止
- (9) 個人情報を利用する作業を行うパソコンへの業務に関係のないアプリケーションのインストールの禁止
- (10) その他、委託の内容に応じて、個人情報保護のための必要な措置
- (11) 上記項目の従事者への周知

(取得の制限)

第9 受注者は、この契約による事務を行うために個人情報を取得するときは、事務の目的を達成するために必要な範囲で、適法かつ公正な手段により行わなければならない。

(目的外利用・提供の禁止)

第10 受注者は、発注者の指示がある場合を除き、この契約による事務に関して知り得た個人情報を契約の目的以外の目的のために利用し、又は発注者の承諾なしに第三者に提供してはならない。

(複写、複製の禁止)

第11 受注者は、発注者の承諾がある場合を除き、この契約による事務を行うために発注者から引き渡された個人情報が記録された資料等を複写し、又は複製してはならない。

(資料等の返還等)

第12 受注者は、この契約による事務を処理するために、発注者から提供を受け、又は受注者自らが取得し、若しくは作成した「個人情報が記録された資料等」を、この契約完了後直ちに発注者に返還し、又は引き渡すものとする。ただし、発注者が別に指示したときは当該方法によるものとする。

(廃棄)

第13 受注者は、この契約による事務に関して知り得た個人情報について、保有する必要がなくなったときは、確実かつ速やかに廃棄し、又は消去しなければならない。

(調査及び報告)

第14 発注者は、受注者が契約による事務の執行に当たり取り扱っている個人情報の管理の状況について、定期に及び必要に応じ随時に調査することができる。

2 受注者は、発注者の求めに応じて、前項の状況について、報告をしなければならない。

(事故発生時における報告)

第15 受注者は、この契約に違反する事態が生じ、又は生じるおそれのあることを知ったときは、速やかに発注者に報告し、発注者の指示に従うものとする。

(契約の解除)

第16 発注者は、受注者が本特記事項に定める義務を果たさない場合は、この契約による業務の全部又は一部を解除することができるものとする。

(損害賠償)

第17 受注者は、本特記事項に定める義務に違反し、又は怠ったことにより発注者が損害を被った場合には、発注者にその損害を賠償しなければならない。

第6第2項関係 発注者が再委託を承諾する場合に付する条件例

- (1) 受注者は、業務の一部を再委託する場合は、再委託先の名称、再委託する理由、再委託して処理する内容、再委託先において取り扱う情報、再委託先における安全性及び信頼性を確保する対策並びに再委託先に対する管理及び監督の方法を明確にしなければならない。
- (2) (1)の場合、受注者は、再委託先に本契約に基づく一切の義務（別記「個人情報取扱特記事項」を含む。）を順守させるとともに、発注者に対して、再委託先の全ての行為及びその結果について責任を負うものとする。
- (3) 受注者は、再委託先に対して本委託業務の一部を委託した場合は、その履行状況を管理・監督するとともに、発注者の求めに応じて、管理・監督の状況を報告しなければならない。
- (4) (3)の場合、受注者は、発注者自らが再委託先に対して再委託された業務の履行状況を管理・監督することについて、再委託先にあらかじめ承諾させなければならない。

(注) 再委託先が再々委託を行う場合以降についても、同様の条件を付すること。

第8(1)関係 個人情報管理台帳(例)

項目	内容
受託業務名	
受領年月日	
大阪急性期・総合医療センター 担当グループ・担当者名	
個人情報が記録されている媒体・数量	(例) 紙 ○○枚、USB○○個
主たる個人情報の種別	(例) 申請者の氏名・住所・電話番号
個人情報の保管場所	(例) ○○室内鍵つきロッカー
管理責任者名	
作業従事者名・所属部署	
作業場所	
作業場所からの持出しの有無	(「有」の場合、持出管理簿等を別途作成)
複写の有無	(「有」の場合、複写管理簿等を別途作成)
廃棄・返却年月日	
備考	

(注) 受託事務の内容により、適宜項目の追加・削除を行うこと。

Ⅲ 委託役務業務に係る出向社員等の取扱特記事項

入札等により大阪府立病院機構が発注する委託役務業務を受注した者が、当該業務を履行するに当たり、他者から出向社員等を受け入れる場合の取扱いについては、以下のとおりとする。

（取扱方針）

以下の２点については、原則禁止とする。

- (1) 基幹社員（業務責任者等）への出向社員等の受け入れ
- (2) 入札公告日から契約締結日まで、又は出向受入時において入札参加停止措置中の者からの出向社員等の受け入れ

ただし、上記(2)に関して、受注業者から、業務の安全かつ確実な引継ぎ、熟練労働者の確保、雇用の安定等のために最低限必要な出向社員等の受け入れについて、発注者に事前に承認願いがあれば、承認基準の全てに該当する場合は承認する。

【承認基準】

- ① 出向社員等の受入期間は最長１年間とする。
- ② 受け入れる人員数は業務従事者全体の５０パーセント未満とする。
- ③ 労働者派遣事業法、職業安定法等の労働法規に違反していないこと。
（労働者の供給事業などの違法な行為を行っていないこと。）
- ④ 受注業者及び出向元（派遣元）企業が親会社・子会社の関係にないこと。
- ⑤ 出向元（派遣元）企業が大阪府暴力団排除条例に基づく公共工事等からの暴力団の排除に係る措置に関する規則（令和２年大阪府規則第６１号）第３条第１項に規定する入札参加除外者、同規則第９条第１項に規定する誓約書違反者又は同規則第３条第１項各号のいずれかに該当すると認められる者でないこと。

（用語の定義）

- (1) 「受注業者」とは、競争入札等により当該業務を受注した者をいう。
- (2) 「入札参加停止措置中の者」とは、次のア又はイに該当する者をいう。
 - ア 大阪府立病院機構入札参加停止要綱に基づく入札参加停止の措置を受けている者又は同要綱別表に掲げる措置要件に該当する者
 - イ 大阪府暴力団排除条例に基づく公共工事等からの暴力団の排除に係る措置に関する規則（令和２年大阪府規則第６１号）第３条第１項に規定する入札参加除外者、同規則第９条第１項に規定する誓約書違反者又は同規則第３条第１項各号のいずれかに該当すると認められる者
- (3) 「出向社員等」とは、出向元と出向先との間で締結された出向契約により、出向先企業の業務に従事する社員、又は派遣される社員のことをいう。
ただし、当該業務に係る入札公告日又は見積書依頼日の１年以上前かつ入札参加停止措置に該当する日以前から受注業者と出向又は派遣関係が確認できる場合はこの限りでない。
- (4) 「子会社」とは会社法（平成１７年法律第８６号）（以下「法」という。）第２条第３号に定めるものをいう。また、「親会社」とは法第２条第４号に定めるものをいう。

大阪急性期・総合医療センターの遠隔医療通訳業務仕様書

1. 業務目的

在留・訪日外国人の増加に伴い、地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪急性期・総合医療センター（以下、「発注者」という。）を受診する外国人患者も増加しており、大阪府外国人患者受入れ地域拠点医療機関としての役割が果たせるよう、急な来院時や夜間休日等における多言語での通訳体制の整備が必要である。そこで、受注者は日本語でのコミュニケーションが困難な外国人患者と発注者の職員がコミュニケーションを円滑に行い、発注者が外国人患者と職員の双方にとって安心・安全な医療を提供できるよう、多言語による遠隔医療通訳業務を実施する。

2. 業務委託期間

令和7年6月1日から令和10年5月31日まで

3. 業務内容

（1）プラン名称

（24H）定額プラン 時間数無制限

（2）サービス内容

①電話通訳、インターネット電話通訳（以下、「電話通訳」という。）

日本語でのコミュニケーションが困難な外国人患者が来院した際、タブレット端末やスマートフォン、電話機により、発注者と受注者の通訳コールセンターの2点を相互に結び、音声による通訳を行う。また、発注者から外国人患者に電話連絡を行う際、発注者と患者、受注者の通訳コールセンターの3点を相互に結び、音声による通訳を行う。

②ビデオ通訳

日本語でのコミュニケーションが困難な外国人患者が来院した際、タブレット端末やスマートフォン、電話機により、発注者と受注者の通訳コールセンターの2点を相互に結び、映像と音声による通訳を行う。

③機械翻訳

日本語でのコミュニケーションが困難な外国人患者が来院した際、タブレット端末やスマートフォンによる機械翻訳サービスを提供する。

※①及び②は、コミュニケーションに誤解が生じると診療や意思決定に影響が出ることが予測される場面（診察、IC、検査、処置、指導、医療費の相談等）において、急な来院時や夜間休日、通訳者への感染のリスクがある場合、患者への電話連絡時など、対面通訳では対応困難な場合に利用する。

③は、診療や意思決定に関わる場面以外での日常会話においてのみ利用する。

（3）対応言語

・英語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語、タイ語、フランス語、ロシア語、ヒンディー語、モンゴル語、タガログ語、ネパール語、インドネシア語、ペルシャ語、ミャンマー語、広東語、アラビア語、ウルドゥー語、ラオス語、ベンガル語、台湾語、イタリア語、クメール語、ダリー語、ドイツ語、パシュート語、シンハラ語、トルコ語、タミル語、マレー語、ウクライナ語（32言語）

(4) 対応時間

①電話通訳：24 時間 365 日（上記 32 言語）

②ビデオ通訳：24 時間 365 日

（8 言語：英語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語、タイ語、フランス語）

③機械翻訳：24 時間 365 日（上記 32 言語）

(5) 使用機器等

- ・タブレット端末 2 台

- …受注者からの貸与。

- ・タブレット 7 台及びスマートフォン 5 台（院内貸出用）

- …タブレットには、発注者の端末に mediPhone アプリをインストールして使用。

- スマートフォンは、電話回線を使用。通話料金及び通信費は発注者が負担する。

4. 業務運営管理体制

(1) 本業務の実施にあたり、発注者は利用責任者、受注者は業務管理責任者を置くこと。

(2) 発注者の利用責任者は、医療の質・安全管理（TQM）センターに置き、本業務の利用管理（職員や患者等に対する利用方法やルールの周知、利用状況の管理等）を行う。

(3) 受注者の業務管理責任者は、業務に係る豊富な知識と経験を有する者とし、本業務の品質及び個人情報の管理を行う。

(4) 受注者は、契約開始時に、業務管理責任者の氏名等について発注者に書面で報告すること。また、業務管理責任者を変更する場合も、発注者に書面で報告すること。

5. 電話通訳及びビデオ通訳

(1) 利用条件

電話通訳及びビデオ通訳は、発注者からの依頼に基づいて行い、外国人患者からは依頼できないものとする。

(2) 外国人患者への同意確認

発注者は、電話通訳又はビデオ通訳を利用するにあたり、その利用に係る個人情報の取得、音声データの録音、誤訳時の責任等について、事前に書面又は口頭で外国人患者による同意を得なければならない。なお緊急時においては、発注者の判断で通訳を依頼することも可能とする。

(3) 音声データの取り扱い

①通訳時の音声データについては、通訳内容の検証等のため、受注者が最大 3 年間保管し、保管期間経過後は、適切な方法により破棄できるものとする。

②発注者は、通訳過誤の検証等の必要がある場合は、受注者に対し音声データの開示を求めることができる。

(4) 業務の質の確保

①受注者は、業務が安全に履行され、発注者及び外国人患者が安心して通訳を利用できるよう、業務の質の確保及び向上のための取組みを行わなければならない。

②受注者は、業務従事者に対し、業務開始前に、業務に必要な知識や通訳倫理等に関する研修を実施するとともに、継続教育や業務後のフォローアップ等により、品質の維持・向上

に努めること。

- ③受注者は、契約締結時に、業務従事者の採用基準、採用後の研修方法、業務従事者へのフォローアップ体制に関する書類を発注者に提出すること。

(5) 守秘義務

- ①受注者は、契約書第7条及び第8条並びに別記「個人情報取扱特記事項」の記載事項を遵守し、この契約の履行によって知り得た秘密を第三者に漏らし、又は他の目的に利用してはならない。これは、この業務委託満了後についても同様とする。
- ②受注者は、業務従事者から秘密保持に関する誓約書を徴し、契約書第7条及び第8条並びに別記「個人情報取扱特記事項」の記載事項の順守を徹底させなければならない。

(6) 業務上の責任範囲

- ①受注者は、業務従事者が外国人患者の人権の尊重及びプライバシーの保護に努め、また通訳過誤、個人情報の漏えい等により関係者に損害等を生じさせることのないよう、細心の注意を払って業務に従事させなければならない。
- ②受注者は、業務従事者の故意又は過失による通訳過誤が客観的に明白であり、その結果、関係者に損害等が発生した場合、その責任を負う。
- ③受注者は、万が一、通訳過誤等による損害が発生した場合にも対応できるよう、賠償責任保険に加入すること。
- ④機械翻訳において、誤訳等の結果、関係者に不利益が生じた場合、発注者及び受注者は賠償の責任を負わない。

(7) 利用料金の算定

- ①電話通訳・ビデオ通訳については、利用時間数を無制限で利用することができる。

6. 利用状況の確認

受注者は、発注者が、WEB 上での利用履歴の閲覧又はデータのダウンロードにより、電話通訳、ビデオ通訳及び機械翻訳の利用状況（利用日時、言語、診療科、場面（診察、検査、支払いなど））を随時確認できるようにすること。

7. その他

大阪府多言語遠隔医療通訳サービスの内容や受託者が変更された場合、その他、この仕様に定めのない事項については、センターと受注者とで協議の上、定めるものとする。

業務管理責任者設置／変更報告書

令和 年 月 日

地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪急性期・総合医療センター総長 様

所在地

商号又は名称

代表者職・氏名

印

遠隔医療通訳業務委託契約書第 10 条第 1 項に基づき、本委託業務に係る業務管理責任者を定め
ましたので、下記のとおり報告いたします。

記

1. 区分

新規 ・ 変更

2. 業務管理責任者の所属部署・職名・氏名

3. 業務管理責任者の業務経験、資格など

4. 設置／変更日

令和 年 月 日